

2016 年度「研究者の横顔」 河田 健二先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は消化器外科医として臨床経験を積んできましたが、手術で治っていただけの患者さんがいる一方で、手術を含めた現在の医療では直しきれない患者さんもおられます。そのような患者さんに対する治療成績を上げるには新たな治療法の開発が必要であると思い、研究をしています。

2. 助成研究の内容紹介

癌微小環境における癌細胞と間質細胞の相互作用については以前より研究されていますが、なかでも骨髄球の役割に着目しています。大腸癌における転移、浸潤のさいに骨髄球が重要なことが分かってきましたので、これが新たな治療ターゲットになるのかを明らかにしたいと思います。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

進行した大腸癌の患者さんに対する新規治療として期待できると思います。従来の抗がん剤との併用で治療効果が上がることを期待しています。

4. 全国の RFL 関係者に一言

助成に採択していただき、有難うございます。治療に結びつく成果を出せるよう、研究を推進させていただきたく思います。